

SUEMURA EIICHIRO

守谷市議会議員

すえむら 英一郎

後援会ニュース

MORIYA CITY COUNCIL MEMBER



もりや市議会だより 2018年10月号 【討議資料】

賛成9名、反対10名での不採択

駅前や大型商業施設内などに、期日前投票所の設置を願う趣旨の陳情が提出されましたが、最終的に賛成9名、反対10名で不採択となりました。

- ・委員会審査の段階では賛成は1名のみだった。
- ・委員会においては反対していながら、本会議で賛成した議員がいた。
- ・複数会派において、本会議の賛否が分かれた。

などもあり、賛否接戦だったことも含め、かなり珍しいケースとなりました。ちなみに私は賛成した9名のうちの一人です。

反対する側の理として、投票率が低いのは有権者の政治的無関心が大きな原因ではないかという視点があると思われます。

つまり、期日前投票所をいくら増やそうとも、関心がなければ投票率は上がりようがなく、その場合投票所増設に要する費用が無駄になります。

私としても上記の可能性は否定しません。しかし、たとえわずかであったとしても、期日前投票所の不足などにより「投票に行けない」ケースがあるとしたら問題視すべきという観点から賛成させて頂きました。

動物愛護に関する陳情の趣旨採択について

1700名以上の署名を伴って提出されました陳情は「趣旨採択」となりました。

陳情内容で触れられていますが、動物愛護目的でなされた寄付金、四十数万円について、一般寄付として溶け込んでしまっているため、寄付者の意思に沿った使用ができない状況にあります。

委員会などの審査においては、形式として一般寄付である以上、一般財源に溶けるのはある意味当然で、それを使うことができないという行政の意見は理解できるという判断でした。



しかし、寄付者の願意に沿った使い方ができる「指定寄付」ではなく「一般寄付」となってしまったのは、動物愛護関連事業が守谷市に存在せず、支出する出口がないというのが根本的な原因です。

そのために、寄付者の願意は重々承知しながらも、「一般寄付」とせざるを得なかったわけであり、論じるべきは、動物愛護条例が存在するにも関わらず、関連事業を事業化せず、1円足りとも予算化しようとしらない守谷市の意思であります。そのような意見表明をさせて頂きました。